

5月1日 第96回メーデー中央集会

働くものの団結で生活と権利を守り、 平和と民主主義、中立の日本をめざそう

メーデースローガン

大幅賃上げ実現！ 労基法解体を許すな！ 社会保障の充実を！ ジェンダー平等！ 均等待遇実現！ なくせ貧困・格差・差別！ 8時間働けば暮らせる社会を！ 被災者支援！ 福島原発事故を忘れない！ 原発のない社会を！ 反戦平和！ 核兵器廃絶！ 9条改憲反対！ 大軍拡・増税反対！ 辺野古新基地建設阻止！

中央メーデーに1万4000人

第96回メーデーの中央集会が、5月1日、代々木公園で開かれました。五月晴れの中、1万4000人が参加し、大幅賃上げで労働者の生活改善、労基法解体反対、消費税減税、軍拡・戦争ノー、改憲反対、原発反対をアピールしました。

メーデー集会の冒頭、秋山全労連議長は、主催者挨拶で次のように述べました。

★秋山全労連議長の挨拶

働く者の団結で要求を実現しよう！

大幅賃上げ、軍拡よりも暮らし改善を、戦争反対！

「25春闘に関わって、大幅賃上げをめざし、全国各地でストを構えて経営者に要求実現を迫るたたかい、春闘の統一行動に結集された皆さんに敬意を表する。25春闘では、中堅組合の5割を超えて昨年を上回る回答を引き出した。また、多くの組合が1万円以上の賃上げ回答となっている。しかし、産業別にみると医療関係が全体の水準を押し下げている。社会保障、介護産業では、昨年を上回る回答が出ている。そうした中で医労連の仲間が厚労省などに訴えている。医療産業は深刻な状況である。改めて、政府に対し公定価格を引き上げるよう求める。物価上昇率に見合わない、報酬改定では、医療産業はもたない。軍拡よりも暮らし、教育に財政を振り向けるよう求める。一方、私たちのたたかいは最低賃金の引き上げをはじめ、労働者の処遇改善、大幅賃上げが必要だとの世論を作り上げてきた。私たちの運動の方向が正しかったものと言える。

しかし、実質賃金は改善されないままである。その原因の一つが、コメをはじめとする食料品の価格高騰



デモ出発前の千代田実行委員会の隊列



千代田実行委員会のデモ隊列

の被爆者の願いを実現させなければならない。日本政府が核兵器廃絶の先頭に立つことが求められている。軍拡予算の拡大は、戦争への道である。絶対に認めることはできない。軍拡よりも、国民のいのちと暮らし、教育を改善する財政に転換するよう求める。

世界の労働者と連帯し、『大幅賃上げ実現！ 労基法解体を許すな！ 社会保障の充実を！ ジェンダー平等！ 均等待遇実現！ なくせ貧困・格差・差別！ 8時間働けば暮らせる社会を！ 被災者支援！ 福島原発事故を忘れない！ 原発のない社会を！ 反戦平和！ 核兵器廃絶！ 9条改憲反対！ 大軍拡・増税反対！ 辺野古新基地建設阻止！』の統一スローガンにある要求だけでなく、すべての働く者が安心して働き続けられるよう、諸要求の前進をめざし、世界の労働者と連帯しようではないか。第96回メーデー万歳！」

来賓として、日本共産党の田村智子委員長が次のように、連帯挨拶しました。

★田村 智子日本共産党委員長の連帯挨拶

政治の責任で大幅賃上げを 消費税減税を勝ち取ろう 日米同盟絶対の政治の転換を

25春闘で昨年の2.5倍のストライキを全国で展開するなど、大幅賃上げ、労働時間短縮へと大奮闘されている皆さんに敬意を表する。多くの職場で昨年と同水準の賃上げを勝ち取っているが、物価高に追い付かない、これは自公政権の無為無策に大きな責任がある。職場でのたたかいと共に今こそ物価高から暮らしを守るたたかい、政治を変えるたたかいを呼びかける。何といっても大幅賃上げだ。全国一律最賃1500円を直ちに、そして1700円に向かう全労連に連帯し、私たち日本共産党もこの政策を掲げて頑張る。鍵は中小企業への賃上げのための直接支援だ。大企業の内部留保の一部に課税し10兆円規模で思い切った中小企業への直接支援で大幅賃上げ、政治の責任でと求めていこう。医療、介護などケア労働者の賃上げは切実でまさに国の責任が問われる。医療機関の6割が赤字、ところが、物価高騰へのまともな対策がない、介護に至っては訪問介

護の基本報酬の引き下げを行う。今、自公政権に怨嗟の声が噴出している。医療機関へ 5000 億円の緊急措置、訪問介護の基本報酬を元に戻す、介護保険への国負担割合を 10%引き上げる、医療危機、介護崩壊を食い止め、ケア労働者の大幅賃上げを実現させよう。そして、消費税を 5%に減税、インボイスは廃止を。消費税減税は国政の現実的な課題へと急浮上している。実現するために 4 つ強調したい。一つは、食料品、日用品などすべてを一律に減税すべきである。これで、年 12 万円の減税になる。食料品非課税だけと比べ 2 倍の減税となる。すべての品目ですべての人に減税する、これが最も効果的な物価高対策だ。二つ目は、インボイスの廃止である。三つ目は、1、2 年の限定ではなく 5%減税から廃止を目指す。四つ目は、財源である。大企業への減税、大株主への優遇税制止めて、消費税減税への財源としようではないか。借金で賄えばよいという主張があるが、5%減税には 15 兆円、廃止には 30 兆円必要だ。毎年、国債を出し続けるのだろうか。不公平な税制を温存するのか。税金は、儲かっている大企業と富裕層に応分の負担を、消費税は直ちに減税を、この声を大きく広げてこそ、歴史的な消費税減税を勝ち取れる。共に力を合わせよう。

最後に、トランプ関税のもとでアメリカ言いなりを止めよの声を上げよう。トランプ関税は一片の道理もない、全面撤回を毅然と求めるしかない。ところが、石破政権は、アメリカの要求を聞いて、交渉を進めようとしている、アメリカからは、コメの輸入拡大、在日米軍の費用負担、GDP3%の軍事費 18 兆円を求める発言が相次いでいる。こういった要求に応じたら、農業をつぶし、米軍基地の被害を拡大し、大軍拡で暮らしも平和も脅かされる、まさに、亡国の道ではないか。

今、アメリカ国内でも世界でもトランプ政権への批判が沸き起こっている。日本でも最近の世論調査で対米外交について、『なるべく自立したほうがよい』が約 7 割と報道されている。日米同盟絶対で思考停止に陥る政治でよいのか鋭く問われている。今こそ、政治を変えるチャンスの時だ。そして、国民の要求、たたかいこそが、その主体だ。このメーデーから暮らしと平和を守る連帯とたたかいの場を大きく広げることを呼びかけ連帯の挨拶としたい。共に頑張ろう。

また、日比谷メーデーから、今年も連帯の挨拶がありました。日比谷メーデーとは、スローガンを統一して、連帯挨拶の交換を行い、メーデー集会を開いています。

集会後、3 コースでデモ行進を行いました。千代田実行委員会は、千代田区職労の組合員を中心に、千代田区労協の旗のもと、恵比寿コースのデモ行進を元気よく行いました。

未来は変えられる！
戦争ではなく平和な
暮らし！

2025 憲法大集会



快晴の下、3 万 8000 人が集まった憲法集会

5月3日は憲法制定から78年目となる日でした。今年も有明防災公園で、快晴のもと、憲法集会が開かれました。参加者は、昨年より多く、3万8000人になりました。

開会にあたって、**総がかり行動実行委員会の菱山 南帆子さん**は、主催者挨拶で以下のように訴えました。



憲法を生かそう！ 守ろう！

街に出て、署名を手に対話運動で、戦争のない憲法の生かされる未来を切り開いていくために頑張ろう！

「今日は、共同で迎える憲法集会で10年目を迎える大きな節目の年である。10年前、横浜の臨港パーク公園で分断と対立を乗り越えた初めての憲法集会が開催された。そこには、3万人を超える人々が集まった。この成功がその後の戦争法と対決する2015年の安保法反対闘争の大爆発につながっている。私たちは、翌年からもっと多くの人が集まれるこの有明防災公園に場所を移し、コロナ禍直

前の年には6万人を超える人々が集まった。コロナ禍では、市民運動は大打撃を受けた。それでも憲法集会の火を消すことはできない。国会正門前からオンライン中継を行い、継続できた。幾度も訪れた改憲の危機を跳ね返してこられたのは、まぎれもなくこの憲法集会を中心とした私たちの粘り強い市民運動があったからだと確信している。

今、台湾有事を口実に、いつでも戦争できる体制づくりが進んでいる。沖縄では在日米兵による性暴力事件が繰り返されている。これは、単なる個別の事件ではなく、軍事によって社会が覆われる中で起きる構造的な暴力に他なりません。戦争と性暴力は表裏一体のものである。だからこそ、平和を守ること、軍事に頼らない政治こそが真の人権保障であり、憲法の本質そのものである。今、世界は、ウクライナ、ガザを頂点に、排外主義と分断が吹き荒れ、世界的な戦争の危機が進行している。今こそ、平和憲法を生かそうとたたかってきた私たちは、この世界的危機のただなかに打って出るときではないだろうか。トランプ現象と性差別撤廃に対するバックラッシュは、一体のものとして世界中に広がっている。あのトランプをまねた非常戒厳攻撃に対する韓国の民衆のたたかいは痛烈な反撃ののろしとなった。ユン支持派は、韓国国旗と星条旗を持った男たちに占められ、弾劾派は、若者を中心とした多様な人々であった。両者の違いは鮮明である。あらゆる分断の時には、戦争が手招きをしている。その分断を阻止するたたかいは、女たちの連帯とパワーに他ならない。かつて、侵略と戦争で世界を壊し、自滅してきた日本。今度は、ミサイルで戦争する国作りではなく、憲法を持って、平和を作り出すときではないか。

総がかり行動実行委員会では、軍拡に反対する新署名を始めた。今こそ私たちは、街に出て、署名を手に対話運動で、戦争のない憲法の生かされる未来を切り開いていくために頑張ろうではないか。

7月には、参院選がある。与野党逆転や改憲勢力を追い詰めるだけでなく、選択的夫婦別姓に反対する議員は次々と落選させるように運動を盛り上げよう。これは、家父長制と一体である戦争に反対するたたかいでもある。

未来を切り開く運動は、楽しくあるべきだと思う。明日からまた、地域、学校で頑張っていこう。

植野 妙実子さん（中央大学名誉教授・憲法学）さんのスピーチ**日本国憲法の永久平和主義生かし 絶対に戦争させてはならない**

ウクライナでガザで戦争があり、不安定なトランプの政治があり、しかし、私たちはたじろぐことはありません。なぜなら、日本国憲法があるからです。その憲法には、永久平和主義が書かれています。私たちは、何も一国平和主義を望むものではありません。すべての国々が平和で楽しく仲良く、幸せに暮らすことを目指すものです。もちろん、私たちが幸せでなければなりません。まず、私たちが足元を固め、そしてそこから世界に発信し、すべての国の人々に、平和はすばらしいものだということを切々と説いていかなければなりません。

なぜなら現状をみてもわかるように、一度戦争が起きたならば、終わりは見えません、どこに着地するのでしょうか。それに様々な政治や政策はディール（取引）で行われるものではありません。何を基本にして行うのか、日本国憲法は、13条に個人の尊重を定めています。一人一人を尊重してこそ、憲法があり、その上に平和が作られていくのです。この個人の尊重を大切にしなければなりません。トランプは、男と女、二つの性しか認めないと言っています。それではオリンピックはどうやってやるのか、いろいろな会議は、どうやってやるのか、どこで男と女を見分けるのか、こういう基本的な問題に突き当たります。様々な人がそれぞれのありようを抱えています。身体にしても思想にしてもみんな違うのは当たり前、経験にしても何にしても、みんな違うのは当たり前、そうした様々な経験やありようを抱えている人たちを、この社会の中で共生する共に生きていく、そういう幸せな暮らしを作るのが、まず前提として平和であることが必要になるのです。

他方で、ミサイルが飛んでくる、おびえながら暮らすでは、私たちの権利が守られるはずはありません。また、ミサイルが飛んでくる中で選挙をするなんてできません。日本国憲法の中には、永久平和主義、基本的人権の尊重、国民主権という三つの原則があります。これは、すべて平和ということを前提にしています。私たちが自由や権利を行使する、選挙権を行使する、立派な政策を実現させていく、その立派なというのは、何ととっても私たちにとって、立派な素晴らしい政策、みんなが幸せになれるような政策を実現する、その前提として平和が必要なんです。平和でなければ私たちは何もできません。絶対に戦争はしてはいけません。政治家の人たちも各国に対し、日本国憲法の素晴らしさをいうべきです、伝えるべきです。日本は、こういう憲法をもっているんだ、それは日本が加害者でもあり、また被害者でもあった、そういう苦い体験から生み出されているものです。この憲法を大切に、戦後80年となりましたが、これからもこの憲法を一層。実質的に守っていく、それを皆さんと一緒にやっていきたいと思います。

日本をさらに平和の国として発展させていこうではありませんか。ともに頑張りましょう。

田中 熙巳さん（日本原水爆被害者団体協議会代表委員）さんのスピーチ**核兵器も戦争もない世界、人間社会を作り上げましょう**

長崎で被爆しました。原爆の被害がどういうものか、悲惨な光景が脳裏に焼き付いています。あのような兵器は絶対に戦争で使わせてはなりません。もちろん、私たちは戦争をしないこと、これは大事ですが、もし戦争になったとしても核兵器のような兵器は絶対に使ってはいけません。しかし、残念ながら、今1万2000発の核兵器が地球上にある、その中の4000発の核兵器が今すぐにでも発射できる体制にあります。私たちは、平和にとって危険な時に生きています。日本被団協がノーベル平和賞を受賞したことは、まったく予想していませんでした。なぜか、それは、これまで、3回候補に上がったことはあります。しかし実現しませんでした。今から7年前に ICAN という組織がノーベル平和賞を受賞しました。2017年には核兵器禁止条約が制定されました。日本被団協は、原爆から10年の苦しい期間のかん口令を耐えて、被爆者が結集し

て運動を始めました。「核兵器は使うな、戦争はするな、平和を保て」と運動を進めて来ました。70年に近い運動をやってきました。

2017年には受賞できませんでした。なぜか、ノルウエーは、アメリカと同盟国です。原爆を落としたことを批判し廃絶に向けて活動する被団協を誉め称えることは、アメリカにたてつくことになると考えたかもしれません。平和賞は、アメリカに対する遠慮が働いたのかもしれません。

なぜ昨年、被団協が受賞することになったか、それは、今日の核要請にあります。ロシアは、核でおどしながら、隣国を侵略しています。イスラエルは核を使うことがあると言って、ガザを攻撃しています。インドとパキスタンの国境紛争もあります。両国とも核兵器保有国です。この数年の間、世界は、核戦争が始まるかもしれない危険な状況にあります。この状況を何とかしたいとノルウエーの委員会が考えたのではないのでしょうか。「核兵器は絶対に使ってはいけない」という運動を続けてきた日本被団協の役割を果たしてもらいたいという願いがあるのではないのでしょうか。

しかし、私たちは年を取りました。私は、93歳です。仲間は80歳以上です。

私たちの努力を引き継いで、若い人達と協力して、世界中に広げてもらいたい、核兵器が非人道的だということを世界に訴えてもらいたい。

「核兵器も戦争もない世界、人間社会を作り上げましょう」とノーベル賞受賞の講演で述べ、呼びかけました。皆さんにも呼びかけます。

古賀 茂明さん（政治経済評論家、元経済産業省官僚）のスピーチ

日本国憲法を復活させ、戦争国家づくりをやめさせよう！ そのために政治を変えよう！

日本国憲法、本当に大事なものだと感じています。今、世界は、変わりつつあります。かなり変わったのかもしれませんが。アメリカと日本は戦いました。その後、原爆を落とされたにも関わらず、日本人は、アメリカって素晴らしい国だ、こう思い続けてきたんじゃないのでしょうか。そう思われてきたのかもしれませんが。安倍政権、岸田政権は、アメリカが一番大事な同盟国である、そして価値観を共有できる大事な友達だと言い続けてきました。しかし、それは実は間違いでした。トランプさんになって、それがはっきりしました。しかし、トランプ大統領だけがおかしいわけではありません。アメリカにはおかしな考えが根強く広がっています。だから、トランプさんは2回も選ばれたわけです。アメリカはもう信用できないのではないかと、やっと日本人も気づき始めました。それではどうするのか。ここで、日本国憲法の精神を考える必要があります。もともと憲法は、世界中の国々、国民のつながりで世界の平和を守っていくという考えです。憲法前文にはっきり書いてあります。そこに立ち返ることが必要です。

今、アメリカとの関係を問い直すことは、中国との関係を問い直すことと表裏一体です。アメリカから自立しようと言うと、中国が怖いという人がいます。それにどう答えるのでしょうか。それは中国の人と話せばわかります。話しをしないからわからないのです。話しをするべきです。中国の人は、誰一人、日本と戦争しようとは思っていません。日本だけです。中国に向かって、ミサイルを発射できるように基地をつくり、射程距離をどんどん伸ばしています。北京を攻撃できるようにしています。そういうことをすれば、相手だって心配になります。



千代田区労協の旗の下で

ですから、アメリカとの関係を問い直す時には、中国との関係を安定させなければなりません。話しをすることが大事です。それが、日本国憲法の本質だと思います。

ヨーロッパもアジアもアメリカとの距離を置つつあります。日本だけが、まだ、アメリカにしがみついています。今、大きな分かれ道です。ここで変えるチャンスです。去年の衆院選で自公を少数与党に追い込みました。今夏には参院選があります。今度の選挙では、どっちに行くのかが問われています。参院選、それに続いて衆議院を解散してほしいと思っています。そのためには、躊躇せず、不信任案を出してほしい。大きな分かれ道の時に意見を聞いてほしいと思います。立憲民主党も他の野党も一致して解散に追い込むではありませんか。参院でも衆院でも勝てれば政治が変わります。そうすれば、日本国憲法がもう一度復活できる、戦争できる国に突き進んできましたが、その流れを逆行させる、理想をもう一度高く掲げて、世界に訴えていこうではありませんか。

皆さんのこれからの頑張りが、それを実現するものです。もっともっと広げて、日本を変えていきましょう。

集会後、二つのコースでデモ行進を行いました。私たちは、東京地評と共に、お台場コースで、モノレールの青海駅を越したところまでの2キロをコールしながら歩きました。

25. 5. 3憲法集会スローガン

私たちは

- ・改憲発議を許さず、憲法をいかし、平和・いのち・くらし・人権を守ります。
- ・パレスチナの恒久的停戦とウクライナからの撤退、憲法9条をいかした平和外交を求めます。
- ・ミャンマーや韓国市民などの民主化運動に連帯し、東アジアの平和を求めます。
- ・台湾有事の扇動を許さず、敵基地攻撃能力の保有と日本全土へのミサイル基地配備の撤回を求めます。
- ・平和主義をつらぬき、核兵器のない世界をめざして、日米軍事一体化と軍拡増税、武器輸出を許しません。
- ・沖縄の民意を踏みにじる辺野古基地建設に反対し、米兵による性暴力を許さず、日米地位協定の抜本的改定を求めます。
- ・原発推進政策を撤回し、再生可能エネルギーへの転換を求めます。
- ・ジェンダー平等を実現し、選択的夫婦別姓の法制化、個人の尊厳を大切にする社会をめざします。

これら実現のため共同の輪をひろげ、参議院選挙でも金権腐敗、憲法破壊の自民党政権に審判をくだし、安心してらせる社会をめざします。

(千代田区労協事務局長 小林秀治)

※皆さんからの投稿、感想・ご意見などお待ちしております。

* 千代田区労協通信バックナンバー／http://www.chyda-kr.org/kuroukyou_news2023.htm

学習して、組織づくりをすすめましょう。

第3回 2025年5月23日(金)

働く者はどうして団結しなければならないのか

労働組合はどのように生まれたか
—資本主義の基本的な仕組みと労働組合—

貧困・格差が広がる背景には儲け優先の資本主義社会があります。その基本的な仕組みを学び、労働組合がなぜ必要なのか、どのような役割を果たすのかを考えます。

講師：江口健志 (東京学習協常任理事)



千代田区春闘共闘委員会主催・東京労働者学習協会協賛

千代田区春闘共闘 労働学校

時間：18時30分開始 参加費：無料

場所：千代田区労協事務所

【共通タイムテーブル】

18:30～開校のあいさつ(5分)

18:35～労働組合よもや話

19:00～講義(60分)

20:00～休憩(10分)

20:10～質問(20分)

20:30 終了 ★その後交流会予定

【参加申し込み先】

千代田区労協 及び 千代田区労連

〒101-0061

千代田区神田三崎町 2-19-8 杉山ビル2階

Tel:03-3264-2905

Fax:03-6272-5263

Mail:chiyodakurokyo@gmail.com

chiyororen@yahoo.co.jp



第4回 2025年6月27日(金)

「私の組合は ジャンケンで役員を決める」？

—労働組合と民主主義を考える—

「組合は何もしてくれない」「役員はジャンケンで決めている」…“民主主義の学校”と言われる労働組合は今…？組織が直面している問題から、今日的な改革の方向性をディスカッションを通じて考えます。

講師：黒澤幸一 (国民春闘委員会・全労連事務局長)